

令和7年度外部評価 事業評価シート

No	4	事業名	安城市ジュニアキュレーター講座(文化財啓発事業)
所属	文化振興課文化財係	事業開始年度	令和7年度
事業内容	小中学校出前授業、夏休み子ども考古学講座・あおぞら歴史教室など各世代への働きかけ、事業を協働する文化財ボランティアの育成		
目的	・文化財に理解を深めるための普及・啓発活動を通じて、市独自の歴史性への共感／・若年層では市の歴史文化に興味を持つことで地域アイデンティティの形成、その他世代では知的好奇心を深めることで社会教育・生涯学習の役割を担う		
根拠法令等			
総合計画	8文化芸術-（2）歴史資源の保存と活用		
関連事業	文化財保護事業、史跡整備事業、埋蔵文化財調査事業		
事業の必要性	安城市ジュニアキュレーター講座は、高校生Youtube事業の後継事業です（詳細は、経年の状況で説明）。 【市民ニーズ】小中学校による見学学習や出前事業などを通じて、地域の歴史や文化を学ぶ機会を求める声が高まっていることを実感しています。また、伝統芸能などの地域の文化の伝承のため、地域からも子どもたちに地域の歴史を学んで欲しいという要望があります。 【行政が行う必要性/民間による代替性】行政が行う必要性としては地域の文化・歴史の理解と継承、実践的な学びの提供などが挙げられます。また、本事業は民間・地域住民・市民ボランティアなどさまざまな立場の方と多角形に連携した講座になっています。		

【実施状況】どのような活動をしてきましたか

活動実績	ジュニアキュレーター講座の前身事業、高校生Youtube事業について
	1 事業開始の経緯 令和4年度～：NHK大河ドラマ「どうする家康」のシティプロモーションを契機として「市内高校による安城の歴史紹介YouTube制作」を開始。事業内容は、高校生Youtube事業は市内高校の放送部と協働で、安城の歴史に関するショートムービー（Youtube）を制作・投稿すること。事業目的は、（1）若い世代と協働・共創し、市域の文化財（文化遺産）に関する情報を発信すること、（2）若い世代が文化財（文化遺産）の良き理解者になり、地域に誇りを持つ機会とすることでした。 （令和4年度） 安城農林・安城南・安城東の3校／「本證寺の歴史」「三河一向一揆」「本證寺の伝説」①②「安城城の歴史」「安城合戦」など12本（各2～3分程度） （令和5年度） 安城農林・安城南・安城の3校／「日本デンマークの理論的指導者 山崎延吉」「安城七タまつりのあゆみ」「南吉先生の青春」などの4本（各4～8分程度） （令和6年度） 安城・安城南の2校／「安城市埋蔵文化財センター」「200もの末寺を持った真宗寺院の伽藍」（各3分程度）

【事業費】どのくらい市税等の一般財源が投入されていますか。どれくらい費用が掛かっていますか。

年間事業費等の推移	No	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	①	事業費(決算額) (千円)	6,091	3,310	2,551
	事業費内訳	補助金			
		報償金・旅費	1,515	1,017	881
		需用費	2,395	1,869	1,362
		役務費	47	60	
		委託料	1,738	198	121
財源内訳	②	使用料及び賃借料	396	166	187
		人件費(従事職員数×6,600千円 令和6年度からは6,700千円)	3,300	3,300	3,350
		従事職員数 (人)	0.50	0.50	0.50
		③ 総事業費(①+②) (千円)	9,391	6,610	5,901
		一般財源 (千円)	9,391	6,610	5,901
財源内訳	特定財源(など) (千円)				
		財源合計 (千円)	9,391	6,610	5,901

【活動指標】成果を達成するために必要な活動とその量

	令和6年度 (実績)	令和7年度 (目標)	令和8年度 (目標)
ジュニア・キュレーター講座回数（回）	未実施	7	7
ジュニア・キュレーター講座参加者数（人）	未実施	15	20

【成果指標】この事業が目指す姿と目標値

安城市の文化・歴史に愛着や誇りを感じる人の割合（％）（第9次総合計画：2023年度実績、43.5％）隔年でアンケート	令和6年度 (実績)	令和7年度 (目標)	令和8年度 (目標)
若年層を対象とした文化財啓発事業参加者数	未実施	44	未実施予定
	791	900	1,000

【課題】成果を達成する上で、課題・障壁となっているものは何ですか

課題	活動実績・事業成果等を踏まえて記入
	学校や市内施設における出前講座は、市民が歴史遺産に触れる機会にはなるものの、受動的で不定期開催となっている。市民が歴史遺産に触れ、その価値や魅力を共有するためには、定期的な講座や情報発信を行うことで能動的に参加する機会を創出することが重要である。そのためにも好評いただく講座の継続のほか、新たな事業展開が課題となっている。

【論点】課題・障壁を取り除くための取組内容

外部評価での論点	文化財啓発事業としての新規講座を定期的実施することで、歴史遺産に触れる新たな機会を創出します。特に、若年層に対する文化財啓発事業は、将来にわたる文化遺産を守り伝えるための重要な取組みであるため、出前授業の継続的な実施のための働きかけはもちろんのこと、今年度からジュニアキュレーター講座のような子どもたちの能動的な活動を支える取組みが必要だと認識して実施しています。 外部評価の論点としては、これらの取組みをさらに効果的にする方策をご指導いただきたいと思います。
----------	---

令和7年度外部評価 事業評価シート

【参考比較】

法律や政令等により、市の裁量では、改善、廃止など変更ができない内容がある場合は、簡潔に記載してください。	
---	--

他市の実施状況等	ジュニアキュレーター講座に類似する事例は以下のとおりです。 ①船木山古墳群こども学芸員・研修生ふるさと学習ロマンプロジェクト（岐阜県本巣市）田植と収穫体験、古墳見学、小中学生対象、全10回、1500円。 ②子ども学芸員養成講座（大分県佐伯市）郷土の歴史を調べて成果発表、小5～中学生対象、全8回、無料。 ③こども学芸員（岡山県岡山市夢二郷土美術館）美術作品の取扱いからミュージアムトーク、小中高大対象、全8回、無料。 ④Jr. 学芸員候補生（茨城県自然博物館）研究方法を勉強して個人研究、そして成果報告会、中高対象、活動期間1年、無料。 ⑤ジュニアキュレーター養成講座（熊本県御船町恐竜博物館）博物館の仕事のお手伝い、小5～中学生対象、全6回、無料。 ⑥稲沢文化財愛護少年団（愛知県稲沢市）文化財見学や体験講座、小4～中学生対象、全9回、無料。 ⑦尾道市文化財愛護少年団（広島県尾道市）郷土の歴史や文化財を学習する、小5～中学生対象、 ※安城市の特徴としては、著名な考古学者を外部講師として招くとともに、現役アナウンサーを迎えてコミュニケーション能力の向上を融合させたことが挙げられます。
-----------------	---

経年の状況 (事業開始の経緯 や改善の経緯)	1 文化財啓発事業の経年の状況 (1) 文化財啓発事業（実施年度、内容、今年度実施回数） ・あおぞら歴史教室（昭和40年代頃～、全世代対象、市内歴史遺産の理解を深める見学ツアー、年3回） ・土器作り教室（平成17年度～、小学3年生以上を対象、土器づくりボランティアと協働で弥生時代の土器作りを再現する体験講座、週2回） ・子ども考古学講座（平成18年度～、小中学生を対象、石器作りや塩作りなどの実践型の体験講座、年5回程度） ・安祥文化のさとまつり（平成18年度～、安祥文化のさと一帯を親しんでもらうためのイベント、市内小中学生の社会科自由研究の優秀作品展「れきしのひろば」、市内歴史団体の発表、安城の発掘の歩みを伝える展示などを開催、年1回） ・史跡を巡るバスツアー（平成30年度～、全世代対象、安城ふるさとガイドボランティアと協働して歴史遺産を伝えながら理解者を増やす、4回連続講座） ※このほか、出前授業・講座、発掘調査現地説明会（随時）があります。 2 改善の経緯 (1) 高校生Youtube事業の見直しについて 活動実績で紹介した高校生Youtube事業につきまして、Youtubeに投稿する以外の作品紹介場所の確保など活用方法に課題がありましたので、令和6年度に発展祭で参加者にご覧いただいたほか、アンフォーレ・市埋蔵文化財センターなどの施設で作品を紹介し、高校生の活動の周知を図りました。しかしながら、令和6年度：事務事業総点検で、①安城市の歴史を市内外に紹介するという趣旨は理解できるものの、動画の制作目的や活用方法、ターゲットが不明確であること、②市の歴史に親しむ人材育成の方法として動画制作による必要はないことなどから廃止と判断、別の方法の検討が求められました。 (2) 改善の方法について 上記の課題を踏まえ、令和7年度から安城市ジュニアキュレーター講座を計画・開催しています（全7回）。 【事業目的・想定される効果】・歴史や文化を学び、地域に愛着を持ちながら、それを他者に伝える喜びを実感することで、シビックプライドを醸成する／・同世代との交流を通じ多様な視点を得ることで、将来のキャリア選択の幅を広げる機会になる／・参加者の活躍する姿を見ることで家族・友人など周囲へと繋がる広がり 【前事業との関わり】文化・歴史に興味を持つ小学5年生から中学生の個人にターゲットを絞り、自ら学び発信する主体的な学びを促進することに重点を置きました。また、本事業にかかる講師のほか、協力いただく地域住民やボランティアも含めた多角形に連携する広がり成果と位置付けました。今年度は市の歴史の概要を学んだ上で、本證寺を主な題材とした歴史の知識習得に加え、コミュニケーション技術を学んでもらい、最終的に本證寺の歴史を本證寺を訪れた方にガイドする、ジュニアキュレーターになってもらうことを目標とします。※「文化財を学び、伝える」 【事業内容】別紙チラシの通り（資料1）、講座ワークシートの一例（資料2） 【応募方法】広報あんじょう・市HP 【参加人数】想定人数10人程度→15人受け入れ。※講座には家族も同席することもあり。 【今後について】主に取り扱う歴史の題材（例、安城松平家、桜井古墳群と鹿乘川流域遺跡群ほか）を増やしていくこと、参加者に対して外部講師を迎えた講座などへの参加を呼びかけてフォローアップをしていきます。こうした継続的な事業展開とキャリアデザインの支援を行うことで、世代間の幅や家族の繋がりを広げていくことで、長期的な視点でシビックプライド醸成に努めます。なお、講座内容・回数等についてはより効果的な時期等を検討していきます。 (3) 令和7年度のその他の新規事業について ・国史跡本證寺境内指定10周年記念シンポジウム（市民を対象、史跡整備を進める本證寺の歴史・文化をわかりやすく伝える、無料、12月20日を予定） 3 令和7年度文化財啓発事業費について 事業費3,628千円、ジュニアキュレーターでは事業費内訳（報償金200千円・消耗品30千円・人件費（0.1人）670千円）＝総事業費900千円を見込んでいます。
---------------------------------------	--